

第2回大川市学校適正規模・適正配置化検討委員会 会議録

平成26年11月27日、大川市役所大会議室において、第2回大川市学校適正規模・適正配置化検討委員会を開催しました。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりです。

1、開会及び閉会に関する事項

開会 午後3時00分
閉会 午後4時40分

2、欠席委員の氏名

古賀健悟委員、今村まゆ委員

3、事務局等の出席者

教育長	記伊 哲也
学校教育課長	持木 芳己
生涯学習課長	田中 良廣
学校教育課 指導主事	東 勝典
学校教育課 指導主事	大石 政剛
生涯学習課長補佐	岡 辰磨
学校教育課 総務係長	本田 龍雄
学校教育課 学務係長	龍 健司
学校教育課 総務係	古賀 彰浩

4、傍聴者

3人

5、議事録

委員長	<p>それでは、定刻になりましたので、ただいまより第2回大川市学校適正規模・適正配置化検討委員会を開会いたします。</p> <p>本日は、皆様お忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>出席者は定足数に達しておりますので、さっそく会議次第に従って進めさせていただきます。</p> <p>委員長挨拶ということで、ひとこと申し上げます。</p> <p>第1回の前回は、皆様からいろいろなご意見、質問等いただきまして非常に建設的なご意見も多かったと思います。本日は第2回目ということで、自治体の数値に、私も驚くべき数字が上がっております。</p> <p>その数値をもとに皆様にご意見戴きたいと思います。</p> <p>時間にして1時間半以内の予定としておりますので、どうぞ皆様よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、議題3の報告にはいりますので事務局のほうから、ご説明をいたします。</p>
事務局	それでは、報告（1）の小学校から中学校への進学率について、第1回会議

の時に委員さんより要請がありましたので、別紙1ページから2ページに平成21年度から平成26年度までのデータを載せております。2ページのグラフでよく分かるかと思われませんが、平成21年度から平成25年度までは、平均5%前後を推移しておりましたが、平成26年度は、グラフを見ていただくと一目瞭然分かりますとおり、大川東中学校の数字が高く、平均を押し上げております。原因といたしましては、兄弟が別の学校に行っているとか、友だちが行くなどの友人関係があったと聞いております。

報告については、一括してご説明させていただきます。次に、(2)平成51年度までの小中学校児童生徒数の推移ということで、2040年問題があるので、推移でいいからその時までの児童生徒数のデータを出してほしいということでしたので、別紙3ページから6ページに集計表を掲載しております。3ページには小中学校の一覧、4ページが小学校の大川、宮前、三又、道海島、次に田口、川口、木室、大野島、最後に中学校別の数字を掲載しております。その中で、5ページの一番下に掲載しておりますが、大野島小の平成31年度、平成32年度の小学校1年生は極端に少なくなっております。

続きまして、(3)のスケジュールについてですが、議論を進める上で、必要だということで事務局の案を提示しております。議論の進み具合や検討する事項が多くなれば変わるとは思います。予定としては、9ページに載せておりますが、本年度中には基本的考え方、小学校や中学校の再編成を検討するのか、今のままでいくのかを基本的にまとめていただきたいと思います。

その中で、来年度は再編があればどのような再編の仕方なのか、そういう方向性まで進みたいと思います。例えば、小学校は地域の特色等あるので、そのままがいいので中学校だけの再編になるのか、いや、両方ともいるのか、または小学校も中学校も含めて再編するのかということですが。

また、前回会議後、委員さんから質問書・意見書が出でおりますので今回お配りしております。小学校の意見としては5件、中学校の意見としては4件、質問が3件でしております。

まず一つ目の質問ですが、地元の中学校に入学しなくて、他の私立の中学校に入学する生徒の数を知りたい。ということで今回は報告(1)で今年までのデータを出しております。

質問2ですが、成績の良い子どもたちが私立のほうに入学していると聞けども、大川市の中学校の教育程度はどうなっているのか教えてもらいたい。という質問ですが、これにつきましては、今回の全国学力学習テストの大川市内の中学校の平均正答率は、数学・国語とも全国平均と比べて、おおむね良好でございます。

次に、みやま市では、統合が決まっていたのに白紙になったと聞いたけれども、市は知っているのか。またなぜ、白紙になっているのか解っていれば教えてもらいたい。というご質問ですが、情報は聞いております。白紙になったのは小中一貫併設型でして、ただ、小学校だけの統合は学校建設場所について決定し、現在、仮設の校舎の建設が進められております。

以上、説明を終わります。

委員長

はい、ありがとうございました。ただいま、事務局から説明がありました

	<p>ので、報告1番から3番と、また意見書について、ご助言等いただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
A委員	<p>ちょっと、よろしいですか。先ほど、質問3の中で、みやま市の事が載っていましたが、私も筑後市の事を耳にしたのですが、筑後市では統廃合が浮上したようですが、校区の壁を取り払った結果ですね、どの地域からも入学できるようにした、生徒の数が多くなって統廃合の問題が消えたと聞きましたけれども、事務局のほうはそういう話は聞いておられますか。</p>
委員長	<p>事務局、いかがですか。</p>
事務局	<p>筑後市のその時の答申ですね、平成21年に答申が出たんですが、その時の委員、私筑後中学校の校長でしたので、校長会代表として参加しておりました。その時の内容は、筑後中学校、1中学校について6つの小学校がありました。その6つの小学校を2つに統合するという考え方がまず一つですね。それから筑後北中校区もそうでしたし、小学校の統廃合を主にした答申でした。その理由が、古島小学校が、もう複式だったんです。なので、これがずっと続くだろうという事で答申をしたんですが、一向に答申通りなされないという記事が新聞に載っていました。その理由は、古島小学校の人口が増えたんですね。先ほど、おっしゃったように団地を建てたんですね。その団地がえらく安上がりな団地を建てたんですね、その優先入居条件が、子どもをもっている親、ということで入ってきて、複式がなくなってしまったんですね。それで延びた。ところが下妻小学校が今度は小規模になってきていて複式が出そうになっていると。なので、今新たに浮上している、なぜ答申通りしないのかと。</p> <p>今、色々な悶着があっているようですが、そういうのは私のほうでは確認できておりません。</p>
委員長	<p>よろしいでしょうか。他にご意見ございませんでしょうか。</p>
B委員	<p>あの、私立等への中学校進学率、今グラフを見ているんですが、例えば大川中学校が平成21年度、22年度ちょっと増えていて、その後減少傾向です。学校によって違いがあるが、例えば、大川中でいえば、そのへんの学校の対応的なものを何かなされていたのか、何があったのか解れば、かいつまんで教えていただければ、その辺わかりますか。</p>
事務局	<p>私のほうで説明いたします。実は、大川中は20年度が1番減っています。27名私立を受けたんです。ですからパーセントにすれば、東中に近い数字です。22年度から小中連携をやりながら。開きました、説明会を以前やっていた3学期から2学期へ早めにして、実際に保護者の方を子どもと一緒に学校に呼んで土曜日にやったりと。要因は、問題行動が非常に多かったがために私立に流れたと聞いております。ですから、実際に3年生2年生、1年生の子ども達の授業風景を見てもらって、安心して進学していただけるようにしたというのが減ってきた要因かと思えます。</p>

B 委員	もうひとつ、26年度の東中ですが、これ私は危機を覚えています、この辺の分析は、今、報告があったようなところの原因とお考えですか。
事務局	まさに係長が説明したとおり、兄弟が行っているから自分も行くとか、友人が行くからなどの理由があるという事が報告されました。
C 委員	<p>私はそれこそ30年近くご相談を受けてきたんですけども。校長先生にもお話ししましたよね、田口小から東中には行かないという生徒さんがすごく多いですよ、という相談です。</p> <p>実は7～8人のご相談を受けたんですけども。ただ、中学校が悪いという訳ではなく、私学が頑張っているんです。それと今年度、今年中学校1年に入った人からほぼ、最寄りの中学全部、中学校3年に県立高校への受験の許可を与えるようになったんです。</p> <p>今までは、そのままじゃ行けなかったのに、あっちもこっちも行けるようになって。ほぼ私立中学は全部、中1の時に入って、中3の時にもう一回、県立学校を受けれます。6年間行かなくても行けますよ、と謳い文句にしたのが一つの原因にあると思います。</p> <p>もちろんご兄弟もそうですが、ただここに書いてある通り必ずしも成績がトップクラスの子だけが行くわけではないはずなんです。ただやっぱり経済的にはある程度、余裕のある子ども達が行っているようです。</p> <p>ただ、今年は田口小学校は教頭先生が変わられて、すごく素晴らしい。このままいけば、一部の親御さんですけどね、このまま大川において、不安な気持ちで出された方もいるんですよ。子どもの事を心配されながら、さっきやっぱり言われたように、ちょっと何かあったようだ。</p> <p>しかし、今年はものすごくいいと、親御さん、聞く方聞く方、素晴らしい来年はひよっとしたら少し変わるかもしれない。</p> <p>ただ、私学に行った理由の一つはそれです。3年後に県立に行けなかったのが行けると。どこの私立も、ほぼ全部です。</p>
D 委員	ただ高校にですね、私学の中学から受けるかという。その数は少ないです。そのまま公立にあがってですね、だいたいそれから私学に、財政的に行ければという。
C 委員	選べるというのがいいですよ。実際6年いってもいい。私立からでも県立に行けるといいうなら安心ですもんね。
D 委員	大川樟風は私学から受けるという子は、私が校長になってからいないですね、この3年間は0です。ただ、輝翔館から受ける子は数名おりました。
委員長	色々な事情があると思います。他にご意見がございますか。
E 委員	よろしいですか。この数字からするとだんだん東中は減少していますね。田口小、木室小で問題があったのが嫌われた原因かなと。そういう感じがします。

C 委員	<p>親御さんたちはやっぱりご自分の子どもが一番かわいいので、客観的になかなか見れないんですよね。一つ現象があればご心配なさる方もいるんですよ。で、東中校区に親戚がいるんですけど。色々悩んでましたね、心配しないでいいと言ったんですけど。1人はそのまま東中に行って、1人は別の私学に行きました。学校がどうこうではないんです。受け止め方ではないでしょうか。先生方は頑張ってます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
F 委員	<p>意見だけお願いします。第1回目から第2回目まで時間がありましたので、地域の方々はどのように思ってたのかな、ある程度聞いたほうがいいかなと思ひまして。地域から挙がった意見ですけど。</p> <p>小学校の件です。小学校は地域の要としてあるから、要がなくなったら、災害時等ですとか、もちろん教育の原点ですけども、そこはやっぱり大川市にとって要は必要なんじゃないかな という意見が多かったですね。</p> <p>小学校があるという事から、ここに自分の子どもや孫をそこに通わせようとかですね。小学校がなくなったら、いよいよもって大川はどうなるかなと。だから、小学校は、要であるということをは是非お伝え下さいという事でございましたので、意見としてお伝えします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。小学校の件、皆様いかがでしょうか。</p>
E 委員	<p>この意見書は、これは田口区長会の会議の中で一人ひとりの意見を出した事を書いています。</p> <p>小学校はほとんどの人が現状でいいと。小学校は地域との関わりが強いからですね。このままでいいじゃないかという意見が多いです。</p> <p>中学校の方はですね、やはり、統合した方がいいのではないかと意見がかなりありました。ここに書いてあるように一校にしてしまうとPTA関係ですね、なかなか意見がまとまらない という意見がありました。あとは通学距離の問題ですね。自転車通学の事故が心配だと、そのため、道路整備が必要ではないかと意見がありました。</p>
委員長	<p>私の方には、毎月、交通事故の報告が来ますからね。事務局の方もいつか大事故が起こるんじゃないかと、心配しているんですけども。他にになにかございますか。</p>
G 委員	<p>いいですか。中学校に関する意見ですけども。小学校の5、6年生の保護者との会話の中にですね、中学校が少なくなって競争力が劣るといふか、競い合う事が少なくなるから、これから社会に出す時に、もっと大きな大海原に出してあげたい。という意見でよそにやる、という保護者の認識もあるようでした。</p> <p>それともう一つは人間関係がうまくいなくて、このまま友だちと同じ中学校に上がったら。というひとつのマイナス事項を変える為の進学もあるよ</p>

	<p>うです。</p> <p>だから、このパーセントにあるような、何パーセントだからという分析をしていくのももちろん大事なんですけれども、それよりも、私は新しい校舎を一校作るのではなく、10年たってまたやっぱり一校にすべきだったとなるなら一校にしてもいいと思うし、段階をおって。</p> <p>例えば南中と大川中を一緒にするとか。東中校区を一緒にするとか。どちらの校舎かは分からないですけども。段階を踏んで変えていって。</p> <p>そういつて保護者の中に、大川市協議会はちゃんと考えてくれているんだなど。じゃないと、保護者の大川はいつまでも変わらないという認識です。だから私学への進学も減らないんです。ちゃんと、大川市は考えているよ。</p> <p>もちろん PTA の問題もありますし、広域になればなるほどなかなかまとまらないです。</p> <p>でもそれはどこの PTA も一緒なので。対応していけるところはできるところ、できないところ、その都度、していくべきだと思います。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p>
H 委員	<p>それを検討する上で、ですね、小学校はおおむね4 km、中学校は6 kmという通学距離が言われているじゃないですか。大川市はそれを重視するんですか、しないんですか。もう、しなくて今みたいな一校として考えると。</p>
事務局	<p>通学距離に関しましては、おっしゃる通り今までのままであれば基準通り、小学校4 km、中学校6 kmです。</p> <p>例えば、中学校一校にした場合、6 kmエリアで足りるかという事になりますので、そこはやはり検討のひとつかと思います。</p> <p>例えば、小学校をいじらなければまだその話はないんですけども、他の地区、宮前とかの学区を見ますと、小学校は4 kmですが、大きな小学校が合併しますと4 km超えますので、スクールバスとか。そうゆう手段を用いてですね、通学距離の基準を緩和していくと。それはこれからそういう必要性があれば検討していきたいと思います。</p>
H 委員	<p>4 km、6 kmにはこだわらなくていいと。考えていていいですね。</p>
事務局	<p>はい。</p>
I 委員	<p>今日の会議は第2回目という事で、この会議はいつもちょっと質問しにくい雰囲気がございますので、その辺の進行の在り方から教えていただきたい。</p>
事務局	<p>今回の資料の9ページに載せております。スケジュールですね、年度内に意見をまとめていただきたい。それまでおっしゃるようないろんな意見が出てくるかと思います。</p> <p>今年度中に再編が必要なのか、そうじゃないのか。というところをまとめていただきたいと思います。ただ最終的にはですね、まとまるのが一番いい</p>

	<p>とは思いますが。その為に私どもは色々な資料を提供致しまして、皆様の同意をとっていきたいと思っております。</p> <p>ただ最終的には委員の皆様同じ意見になるかは分かりませんが、その時は民主主義の原理に基づいて進めさせていただければと思います。</p>
I 委員	<p>ちょっと待って。私が聞いているのはそういう事じゃない。委員長さん主体でおられるから、進めるならパパッと。結局、今年度は来年3月で終わりだから、この辺で一区切りをすとか。いや新年度もやるのかと。今2回目が始まっているでしょ。1回目の会議とあまり変わらないじゃないか。</p> <p>1回目はだらだらと長くやった。今日は1時間半で終わると。それはいいけど、だからあとは進行をなさつとる委員長さんと進める執行部との事前打ち合わせが充分できてないんじゃないでしょうか。やっていますか。それじゃあ、委員長さん進めてください。あちこちからバラバラ意見がでたら、なかなか進まないんじゃないの。進め方の問題だよ。</p>
委員長	<p>報告事項に関して、他に何か質問ありますか。なければ次の議題に入りたいと思いますが宜しいでしょうか。</p>
I 委員	<p>進めてください。だいぶ時間が進んでますよ。</p>
委員長	<p>では、議題（1）大川市の小中学校における現状と学校規模の在り方について事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>今回配布しております、別紙5ページの一覧表をご覧ください。児童生徒数が年々減少しております。報告でご説明致しましたが、平成51年度までの推計で非常に厳しい数字になっております。</p> <p>一部説明致しますと、先ほどの5ページ下の大野島小の平成31年度、32年度の新1年生が少なく、複式学級が生じる恐れがあります。このように児童生徒数の減少は、学級編成に影響します。</p> <p>そこで、7ページをご覧ください。福岡県が定めている学級編成基準を載せております。学級編成基準によりますと、大川市立の小中学校のこの基準により学級編成が行われていますので、特別な研究指定等の措置はありますが、一般的な学級編成の考え方です。</p> <p>通常学級は1クラス40人、小学校1年生だけは35人、それを超えると2クラスに分かれます。また、2学年以上の合計児童生徒数が16人以下になると複式学級になります。ただし、小学校1年生及び中学校を含む場合は合計が8人以下となっております。</p> <p>ここでいいます複式学級とは、2つ以上の学年をひとまとめにした学級のことです。ひとつの教室で違う学年の児童生徒がひとりの教師から授業を受けますので、児童生徒及び教師に多大な負担がかかることが考えられます。</p> <p>この学級編成基準を基にした学級数が適正規模の考え方になります。</p> <p>資料①と②をご用意下さい。まず、資料①4ページに大川市の現状として、平成26年度は小学校が6学級から12学級、中学校が6学級から8学級です。それが、下の方の平成30年度には、同じように聞こえますが、小学校</p>

	<p>が6学級から12学級、中学校がすべて6学級になる見込みです。</p> <p>国の標準どおりでいくと、平成26年度における大川市の適正規模は大川小学校・木室小学校・田口小学校・川口小学校の4校ですが、平成30年は木室小学校だけになる見込みです。</p> <p>また、次の5ページに平成17年度から平成26年度までの10年間の推移を載せています。次の6ページには、平成27年度から平成36年度までの推移を載せております。資料②の3ページには、平成51年度までの推移を掲載しております。</p> <p>ここで見ていただきたいのは、平成34年度から三又中学校が1学年1学級が生じることです。</p> <p>このような事実と将来推計を基に、委員さんのご意見をお願いしたいと思います。</p> <p>以上、説明を終わります。</p>
I委員	最初から説明してやりなさいよ。
事務局	はい。
委員長	事務局の説明が終わりましたが、ご意見・質問等ございませんか。
B委員	<p>基本は、現状から将来を見た時にこれだけ少なくなってきた中で、教育の環境、学びの環境というものに、どのような弊害が出るのか。そういうのを認識した上で、規模が小さいながらも良さがある。メリット・デメリットもこの後からでるんでしょうけれども。どういう事が考えられるか。また、大川市がどのような教育の方針について進めていくんだという背骨をきちんと見せていかないと。先ほどの委員の意見じゃないですけども、保護者は教育のレベルを、最終的には高校受験に際して、そういう学力というものを重視して考えられる。</p> <p>将来、社会人として子ども達が巣立っていった時にどんな子どもであるべきなのか。社会に通用する大川っこをどういう風に送り出していくのか。</p> <p>大川市の教育の在り方、それについて議論しないと。それに基づいてどうあるべきか。</p> <p>ひとつの考え方ですけども形だけにはめ込むのではなく、そういうところも一緒に議論していく必要があるんじゃないかと個人的には思います。</p>
I委員	<p>あの、委員の皆様方は個人研究もグループ研究もされているかと思えます。私も、全国ナンバーワンの福井県を数か月かけて回っております。昨日も3日間行って帰ってきたばかりでございます。</p> <p>そういう風な全国でも一番有数の県を例えば勉強してくると。議員の方々はそのがお仕事でしょうから分かってらっしゃるでしょうけど。なかなかその辺の大川だけじゃ見えないものもあると思います。</p> <p>私が聞きたいのは、地域の皆さんの意見等を反映していくのか。またもう一つはそれぞれの中学校、学校ごと、校長の教育方針というか。それによって、全先生が一丸となってどういう進め方をしていくのか。それによって相</p>

	<p>当、学力の問題も変わってまいります。</p> <p>だから、一概に大川市は平均値にはいっていますよという位じゃ、それだけでは分からない。</p> <p>だから現場を見ながら、そういう研究を我々メンバーはやっている、私は思います。だから限られた時間の中で、限られた結論を出さなきゃならない時がきているんでしょう。来年新年度になったら、どういうメンバーになっているか分かりませんが、またゼロからスタートするんでしょうか。</p> <p>我々委員の中には、来年3月まではいるけど、その先はわからんばいという方もいらっしゃるよ。だから非常に意見を申し上げる我々も、なかなか話しにくい問題も書いてある。教育長、どうでしょうか。</p> <p>まず、小学校・中学校長の教育方針というか。現場というのは、どういう風に進んでいるんでしょうか。私たちはわかりません。</p> <p>もう一度言うと、その学校の在り方、特徴というか。それによって全部子どもに影響・学力というのは変わってくる。私はそのように研修をしました。よろしくお願いします。</p>
G 委員	<p>いいですか。叩き台になるか分かりませんが、例えば大野島小学校の校区を何年か見てきたんですけど。大野島小の学力は高いんですね、小規模校の強みを生かして伸びてきたんだと思いますが、複式学級になっても、なんとか小学校と地域との係りを深くして、子ども達の学力の基になっている、地域の郷土愛とか道徳精神を高めることによって、学力の向上があったと。私はそういう風に思います。</p> <p>ですから複式学級になっても、と思ったんですが、今ここにあるように確かに、複式学級で一人の担任の先生が2学年も準備をしなければならない。そう思うと確かに大変だと。学校の先生方経験者もここに今、校長会からもいらっしゃるんですが、可能なのか、小学校をなんとか残して、地域との連携をさらに強める。いい方向に向かっているところにまた統合となるとまた難しくなる。でも中学校は、2つに統合すべきだと。私は一つの叩き台をもって話を進めていきたいと。思います。</p> <p>複式学級がどれだけの負担になるかというのは、教師経験がないと分からないと思うので。そういうことが副担任を付けて教育上可能なのか。</p> <p>まっさきに大野島はそうなりますよ。大野島は今素晴らしい環境になっています。一生懸命地域の区長さん達と作り上げている。このままなんとか継続して。子どもの教育環境だけじゃなく、地域の30代40代の学びの場にもなっています。</p> <p>だからなんとか小学校関係は今のまま残したい。複式学級の意味がわからない。教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>私の方から、今3人の方から複式についての意見が出ました。</p> <p>まず、今出たのはハード面ですね、どちらかといえば。ハード面を救うのにソフト面である、大川市はどんな教育をしていこうとしているのか。それに関して今やってしまうと、2時間も3時間もかかってしまう。前もって、大川市の教育振興プログラムという冊子を事前にお配りいたします。次回までに。それを見ておいていただいて。次回の中で私がかいつまんでご説明し</p>

	<p>たいと思います。</p> <p>ポイントはですね、大川市の子ども達に志・感謝・誇りを育ませる教育ですね。そのためには当然、先ほど出ましたふるさと学習があります。大川の伝統文化等々、一緒に体験させるような総合的な学習の時間、またはキャリア教育ですね。これは管内でも、いや県内でも非常に頑張っていたいただいていると思います。そういったポイント、ポイントをお話しさせていただければと思います。</p> <p>あとは同じような質問の流れかと思いますが、その流れでいいのかなと。次回も、委員さんがおっしゃったような大川の特色を出した説明をさせていただければと思います。よろしゅうございますか。</p> <p>あと、複式学級の件ですが、あまり複式学級にこだわらなくてもいいのかなと、思っているんですよ。確かに大変ですよ、一人の先生で前と後ろの黒板で違う単元を教える。</p> <p>でも実際ですね。今、小学校では一つのクラスの中に2人の先生がいるんですよ。学習支援員さんやサポーターさんがいます。全然、ほったらかしにはならないのではないかと思います。同じ教室の中でしたら免許を持ってなくても教えられる。これが、分けると免許がいります。</p> <p>だから、市費で学習支援員さん、サポーターさんがたくさん入ってらっしゃるから可能かなと。</p> <p>決して、複式だから、危ないから、統合は嫌。ではないのかなと。私は考えているんですけども。</p>
委員長	<p>その前に、2つの意見があったので、地域に対しての意見ですね。非常に貴重な意見かと思いましたが、特に、地域の在り方として小学校は重要な場合があるという意見ですね。他に地域に対しての意見について何かありませんでしょうか。</p>
F委員	<p>はい。先ほど、三又小学校は少なくなっていると報告を受けましたが、こういうのを聞きましたら、地域でやっていくのは難しいかなあという感じを受けますけれども。</p> <p>最初、言いましたように、三又小学校付近も田んぼやら空いているところに地域協力して、来てもらう街づくりをしないと。小学校が危機管理を感じたら町も変わってくると思うんですね。そういう面で、地域の要として小学校はなくてはならない。というふうなものは、私はマイナスではなくプラスにもっていったら、小学校は各地域伝統があるところに今まで通りあり続けることはいいことではないかと。</p> <p>数字だけ見れば、どうかなあと思うところもあるかと思いますが、マイナスをプラスにもっていくという面に光を当てていただいたらどうかなあと思います。</p>
委員長	<p>はい。そういう考えは第1回目から出ているかと思いますが、皆様も同じ認識を持っていただいているかと思いますが。そういう事を前提に、議論をしていただければいいんじゃないかと思いますが。他にございますか。</p> <p>先ほどの小学校の複式学級についてですが、複式関係では私の知っている</p>

	<p>限りでは、北欧とかアメリカではかなりやっていますからね。上級生が下級生を教えたり。いろんな良い面があると聞いていますので、一概には言えませんが良い面もあるかと思えます、委員さんのご意見いただきたいと思えます。</p>
J 委員	<p>私は通常学級の経験はないんですが、もし複式ということになると実際教えるのはなかなか難しいものがあります。そういう事を教師が経験していないので。</p> <p>例えば、隣のみやま市や鹿児島など、その専門の研究機関があつて、研究されてるようです。しかし、先ほど教育長が言われたように、ひとつの教室に2人教師がいると。それはそれで少人数学習という事で大変メリットがあるかと思えます。</p>
委員長	<p>小学校はそれでいいでしょうけど、中学校が複式となると。また学年等の別の問題がでてくるかとも思えます。先生いかがですか。</p>
K 委員	<p>中学校の複式は難しいだろう。ただでさえ教科で分かれて、今10教科あるんですけども、技術家庭を分けると。それぞれに先生達が一人づつ。</p> <p>少なくとも6学級になれば、大体一人づつになってしまう。教科の先生が一人というのは、まあ大きな中学校であれば1教科に2、3人の先生がいらっしやるでしょうが。</p> <p>大川中・東中・南中は2人いらっしやるが、三又中の場合は1教科に一人の先生です。やっぱりそういった面では授業する方としては、いろんな同教科の先生がいた方が先生達も切磋琢磨します。</p> <p>今度はクラスがどんどん小さくなって、複式ということになりますと、一人の先生で国語と数学を持ったり。私は社会と体育を持ってるんですけども。そういった風に1人で2つを持ったりと非常に難しい面もでてくるかと思えます。</p>
委員長	<p>だから、やっぱり小学校は複式になるような児童数の現象でも地域の要という面で残した方がいいんじゃないでしょうか。しかし、中学校になると学力という面がやはり非常に重要になってくる。だから統合したほうがいいんじゃないかという意見の委員さんもいらっしやるかと。他にご意見はありますか。</p> <p>小学校の教育は最近インターネットで、複式になってもパソコンでよその学校の授業をとというのが日本でも行われていると。</p> <p>やはり小学校と中学校は別にやり方を考えると。ご意見はございますか。それとも、次の議題2のメリット・デメリットへ進みますか。</p>
G 委員	<p>すみません。今ので会議は一步進んだかなと思ったんですけど、ひとつの区切りとして。小学校は複式になっても、例えば教員などが少なくても、地域では出番を待っている方もいるんですね。</p> <p>教職員を退職された方などで子ども達に関わりたいけども、孫の相手ばかりだと。そういう方に上から、声をかけて、募集をかけて、学校と関係を</p>

	<p>持つ。大野島では年に1回、ボランティア活性会というのがあります、そこでみなさん大野島にアイテムを拾い集めるんですね。で、担任の先生と顔合わせしてマッチングする。</p> <p>だから小学校は、いまのまま地域の要として残して、複式ではどうにもならなくなった時にこういう統廃合の話、またしてもいいんじゃないかと。一段階進んだかなと思いました。</p>
委員長	<p>まあ、前回からそんな風な考えはあったかと思います。他にございますか。</p>
L委員	<p>いいですか。先ほどから支援員やサポーターの方の話がでたかと思いますが、単純に複式になった場合にその方たちがいるからさばけるんじゃないかなろうかとの話でしたよね。</p> <p>実際問題として、今もそういう副担任やそういうサポーターの先生達いますが、そこで学んでる子ども達が、まあちょっと語弊がありますけれども、まともというか、健常者ばかりだったらいいと思うんですよ。</p> <p>だけど、中にはちょっと多動の気があるとかで学級運営がうまくいっていない場合がありますよね。それを病院で受診して、この子はこうですという病名を与えられて、親御さんがそれを受け入れて、例えば特別支援学級に行くというならそれはそれでいいんでしょうけども。なかなかそれを認めたがらないという親御さんもいらっしゃる。その学級の中で、それも個性なんだろうけど。そういう子がいるとなかなか学級が進まない。だからその子に一人べったりつけておかないといけないという問題もあるんです。だから、単純に複式だから2人、もしくは3人いるから大丈夫という事にはならないかと。</p> <p>枝葉になってしまって申し訳ないですけども、そういう事も一考しないといけないのかなと。</p>
委員長	<p>もちろん、それも議論しないといけません。現実に授業に介助が必要な子ども、普通学級に通学させたいという保護者も非常に多いです。そういう点でまた次回から議論したいかと思います。よろしいですか。</p> <p>では、時間もおしておりますし、次の議題（2）の小規模・大規模校のメリット・デメリットに移ってよろしいでしょうか。</p> <p>では、事務局より議題（2）小規模・大規模校のメリット・デメリットについて、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、議題（2）小規模校・大規模校のメリット・デメリットについてご説明いたします。資料②の7ページから9ページまでをご覧ください。</p> <p>7ページに小規模校の学習面・生活面・学校運営面・財政面のメリット・デメリットが載っております。これは、文部科学省の集計は小・中合同であります、大川市は中学校のアンケートしかとっておりません。資料集①の9ページから12ページに載せております。</p> <p>若干説明致しますと、小規模校はきめ細やかな指導が行いやすく、個別の活動機会を設定しやすく、人間関係が深まりやすく、相互の関係が密になりやすいメリットがありますが、その反面、切磋琢磨する機会が少なくなり、</p>

	<p>集団教育活動に制約が生じやすく、人間関係や相互の評価等が固定化しやすいなどのデメリットがあります。9ページに中学校における問題点と複式学級の問題点を掲載しております。</p> <p>以上、説明を終わります。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。当然、メリット・デメリットはあるわけです。メリットだけなら議論する必要はないわけですから。今の説明を受けて、何かご質問・ご意見お願いします。9ページの教頭が配置されない可能性とかありますが。</p>
事務局	<p>いいですか。最後の複式学級には将来、教頭が配置されない場合があると。教頭は教員です。教員数の定数に入っています。校長と教員、その中に教頭がいるわけです。</p> <p>したがって、教頭として配置するのか、教員として配置するのかというのもある。今、実際に教頭じゃなくて教員が配置されている学校もある。そういう事をご理解ください。</p>
委員長	<p>そうしましたら小学校・中学校の教育を経て高校へ入るわけですから。今日は、せつかく高校教諭の北島先生が見えられているので、先生よろしいでしょうか。</p>
D委員	<p>はい。高校での少子化問題というのは、苦勞して募集活動を行っているわけですが。先ほどの小中学校の先生のお話を伺いまして、本校の教育活動で、どういう生徒を本校で育てたいか。学校が目指す生徒像・学校像も含めてお話しさせていただきます。</p> <p>本校のエリアは10学区と申しまして、県立・私立、ご存じのようにたくさんありますが、山門高校・三池高校・伝習館高校。伝習館はそれぞれ一校40名ずつ今言いました学校に入っていくわけです。伝習館も来年から5クラス、三池高校も5クラス、山門高校におきましては、本校と同じ4クラスになります。伝習館につきましては、来年から定時制が募集停止となりますので、来年の入試募集提示はありません。</p> <p>本校の場合は、全日が4クラス、定時制が40名1クラス4学級、4年生までございます。そういう状況の中で、募集に力を入れているんですけども。この10学区で、今年卒業した中学3年生に対しまして200名を超える受験生が減る状況になっています。どこの学校も公立・私立ともまぬがれない。そうすると、実際問題、生徒数がないわけですから、受け皿の学校の方も今申しましたように県の方からクラス数を減らすという状況になりますね。ただ、変わらないのは、福岡市の方は逆に人口も増えている学校もありますね。</p> <p>この筑後地区としては非常に今から厳しい状況にありますので、学校としては、学力面・学校での生活面・部活動・行事等の分について非常に厳しくなるだろうと。おかげさまで本校では、部活動の入部率が81.2%で、頑張ってくれております。そういうところで、特色化を図りながら、先ほど教育長が言われたように本校の場合はキャリア教育に力を注いでいる。つま</p>

	<p>り、職業観や勤労観、その先には人間としての生き方・在り方の教育。いかに生徒たちの夢を叶えてあげるか。おかげさまで本校は2年連続就職率100%。これは純粋な100%です。</p> <p>また、進学についても、今年は95%くらいですが、その5%については私学に合格したんですが、浪人して来年国公立を受けると。そのようにそれぞれが夢をもつ。そういう学校づくりをしないといけない。それは高校に限らず小中学校も同じだと思います。これは先ほども言いましたが、生徒数が減る現実がありますので、委員さんからもおっしゃられるように、やはり再編はやむを得ないところがあるんじゃないかなろうかと。</p> <p>小学校は多くの方々がやはりコミュニティの拠点であるという意見もある、中学校はサッカー部が試合に出られないという話もある。やはり生徒の成長を考えると、それは避けては通れない問題ではないかと、個人的には思います。以上でございます。</p>
委員長	<p>そうしましたら1時間過ぎましたので。いろんなご意見が出ますが、小学校は地域の要として地域の中核として、やはり現実的に児童数が減っても今のままの認識で、地域の貢献等含めて考えると。</p> <p>中学校に関しては学力の面で福岡に進学するとかで非常に困っていると。中学校は統廃合した方がいいだろうと。それをまたいつするのかとまたいろんなメリット・デメリットを考えなくちゃならない。</p> <p>他にご意見ありますか、私としてはいろんなご意見をいただきたい。どんなささいな事でもよろしいのでお願い致します。</p>
I委員	<p>はい。今校長先生からお話しありまして、私、区長会もしておりますが、樟風高校の現実問題に際しまして区長会は、それこそ配布物等にしても一生懸命みんなで理解をしながら配っております。</p> <p>大川っ子ですからね、その思いで区長さんから、町内会長さん、班長さんにいたるまで一生懸命、丁寧にチラシを配ってらっしゃる。</p> <p>漏れがないよう、そして読んでいただくようにね。それで、今日は話を聞いてうれしく思っております。そして今一番大事な地元の、大川の総合力について非常に心配しております。景気も落ち込んでおりますし。</p> <p>私もあちこち回って感じておりますが、三世代同居のところが一番教育力というか、地域力としても全国的にも発揮されていますね。</p> <p>そういった点で、この大川がどうなるのかなと若干心配しております。</p> <p>今日はそういった思いを抱きながら、私たちは非常に大事なものを与えていただきましたので残された回数が何回かは分かりませんが、欠席することなく真面目に頑張っていきたいと思っております、よろしくお願い致します。</p>
委員長 M委員	<p>他に何かご意見はありますか。</p> <p>直接関係はないかも知れないですけども、大川中学校の問題ですけど、敷地の問題です。私は酒見で地元なので、いろんな噂が入ってくるんですよ。で、この間、宮総代の人が、中学校はもう移転せやんとですよ。という言い方だったんですよ。だから敷地問題というかそういうのがきちっと守らないと、今後、中学校はどうするのかというなかなか難しい問題があると思うん</p>

	<p>ですよね。これを教育長さんで抱えてくださいというのも難しいと思うんですよ。議員の先先生方も一緒だと思います。でも、ある程度考えないと。</p> <p>いよいよ考えていたのに、中学校を新しく作らないといけなくなったという時に、今までの我々の会議は何だったのかという事になるかもしれないと。直接関係ない事ですけども。</p>
事務局	<p>今の件につきましては、総務課の方で会議をやっておりますので、どこまで進んでいるのか聞きまして、皆様にお示しできる事があれば次回の会議でお示ししたいと思います。</p>
M 委員	<p>はい。分かりました。</p>
委員長	<p>他に何かありますか。</p>
G 委員	<p>質問です。例えば4校を1校にするとしたら、今の既存の校舎ではどの学校も入らないですよ。そうしたら新しく校舎を建てるという事になるのでしょうか。</p>
委員長	<p>それはこれから考えなくてはなりませんので。他にご意見ありませんでしょうか。</p>
N 委員	<p>先ほどから、小学校の地域との共存・連携の話がありましたけども。今、8校小学校がある中で地域との連携が深まっているとか、こういった形で連携を深めているのか、その地域の小学校関係の方がいらっしゃれば教えてください。</p>
H 委員	<p>はい。道海島小学校ですが一つは夏祭りだとか、先日は子どもたち一人ひとりが農地水の方で花を植えて一緒に交流したり、しめ縄づくりや餅つきをしたり、老人会の方とですね。</p> <p>地域としては、さっき言いましたように夏祭りで、子ども達が午前中は神輿をかついで村中を回ったり、夜は子ども会の方で夜店を出してカラオケをやったり、そういう交流があります。先ほど言いました農地水の絡みで花植えの指導をしたり一緒に植えたり。この間やりました。</p> <p>という事で、もちろん何か災害が起きれば小学校が避難所になっておりますので、いろんな絡みがございます。</p>
委員長	<p>後は何か地域の人材を活用するという意味で、子ども達と接してもらったり、教育にも関与してもらおうなどは。</p>
H 委員	<p>もう一つ提案したいのが、道海島小は話題校になっていまして。小学校3年生から強化的に夜も週一回練習して維持しています。道海島の永寿園という施設に夏祭りに演奏に行くとか。年1回慰問に行って太鼓の演奏に行って、交流をもっています。</p>
N 委員	<p>私がなぜお尋ねしたかという、長い間PTA役員をしておりますけど、</p>

	<p>そういう活動には保護者の方は見えられますけども、そういった地域全体としての参加はなかなか実現できなかったことがあります。</p> <p>現在、地域の生活環境・社会関係、生活の時間というんですか、学校のカリキュラムに入っていけないという実態があります。だから学校と地域の交流というのは、1枚ものが挟まったような距離感を私は感じます。</p> <p>実際、学校側が積極的に地域に門戸を開いているかという、なんとなくそれはちょっと抵抗がありました。そこを思ったものですから、例えば三世代同居が社会環境の中で相乗効果を出しているというお話がありましたが、今事実、大川校区の中で三世代同居はなかなか少ない。</p> <p>大川市の中でも地域ごとに世代間の相違というのはありますので、そういった中で地域との拠点となるのは、災害時の拠点であったり、何かの行事であったりというのにこだわっているんじゃないかと、稀有があるんですけども。</p>
J 委員	<p>地域との交流という点では、学校が成立する為には地域の方の力が不可欠です。例えば朝の交通指導、地域行事、運動会、すべての事に来られていただかないと学校は成り立たないという現況があります。</p> <p>先ほど学校の授業の中に入っていくのはなかなか難しいとのご意見がありました。実態では学校ではたくさんの方においでいただきたいというのが本音ですけども、実際、お招きするとなるとお互いのスケジュールを合わせるだとか、どこに人材をお願いしたらいいかというのを配ったり、ものすごく時間がかかります。なかなかお招きできないというのが現状です。</p> <p>できればそういうコーディネータ的な機関があれば、学校としてはとても助かりますし、需要はあるんですけども。なかなかそこまで手が回っていないというのが現状です。</p>
委員長	<p>それと週休二日制の事でゆとり教育なのにゆとりがなくなっているんじゃないかと。</p>
N 委員	<p>そうですね。</p>
I 委員	<p>いいですか。木室の区長会長をやっております。50年以上と思いますが、人形劇をやっております。非常に好評でございまして、小学校の講堂いっぱいになります。</p> <p>地域のみなさん喜んでおられます。父兄会・子供会の方は大変ですけどね。一生懸命やって、公民館などで練習しながらその成果を発表してくれております。</p> <p>校長先生も非常に協力的に頑張ってください、私はそんな行事は珍しいなど。これだけは続けていこうねと皆で語りながらしております。</p> <p>それから小学校を中心にいろんな行事を私たちは見ておりますが、サッカーも夜遅くまでグラウンドでやっておりますね。</p> <p>学校の先生がリーダーというよりも、地域のPTAや父兄の方たち、好きで楽しんで頑張ってもらっちゃると思います。以上です。</p>
委員長	<p>それでは、次に議題（3）の次回会議の日程について、事務局の説明をお</p>

<p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>願います。</p> <p>では、次回の会議につきましては12月22日の15時から行いますので会議室は確認致しますので基本的にはここ大会議室にて行います。</p> <p>また次回は、(1)部活動について(2)小中一貫教育について(3)小中学校の施設の現状についてを議題にしたいと思います。</p> <p>事務局から説明が終わりましたが、ご意見・ご質問等ございませんか。</p> <p>では、以上予定しておりました議題はすべて終わりました。</p> <p>本日はこれで閉会致します、どうもありがとうございました。</p>
<p>【次回会議】</p>	<p>平成26年12月22日(月)午後3時から大会議室にて決定。</p>